



前川 車いすバスケットボールの見学に行ったりもしましたが、同じ世代の女の子がいませんでした。女子のチームは愛知県にしかまだないとお聞きし、迷っていたときに大西選手から陸上競技に誘っていただきました。

市長 陸上競技では当然、義足で走ったり跳んだりするわけですが、そこには健常者からは想像できないような難しさもあるんでしょうね。

前川 走れるようになるまで、半年ぐらいかかりました。

市長 半年もですか。

前川 普段使用する義足と、競技用の義足では感覚が全く違うので、体重の掛け方やタイミングの取り方がかなり難しくて。慣れないと分からないことがたくさんありました。

市長 トレーニングはやはり専門のところでいい、一緒に練習するチームもあるんですね。

前川 大和鉄脚走行会というチームなのですが、みんなが陸上をしに来ているわけではなく、義足になったけど、走り方が分からないとか、義足の友達が欲しいとか、そういった理由で来ている人もたくさんいました。小さな子どもから80過ぎのおじいさんまでいろいろな年代の人が、義足を装着して楽しく走ったり、サッカーをしたりして義足に慣れ、義足の面白さを共有するといったチームです。陸上を始めるようになってからは、その練習だけでは物

足りないということもあり、チームの一部の人たちと一緒に毎日練習するようになりました。
市長 前川さんは義足と非常にうまく付き合っていて芸術品だとおっしゃっているそうですね。「あえて見せていく」そういう心境になったきっかけはなんでしょうか。

前川 義足になった当初は、本当に痛みがひどく、そういうことを考える余裕はありませんでした。痛みが引いてから、これから義足とどう向き合っていけばいいのか、大西選手や大和鉄脚走行会の皆さんに相談したところ、「できないことなんかないよ」と皆さんから教えていただきました。実際、誰かができることは自分もできるんだと思えるようになりました。今はスノーボードなどにも行きますし、好きな旅行にも出掛けますし、義足になってからの方が、移動距離が長くなった気がします。

市長 なるほど。義足は疲れないということですか。

前川 たくさん歩くと痛くなるときもありますが、

